

販売額3,000万円を突破

りんどう部会

りんどう部会（菊地昇一部会長）は11月18日、りんどう部会実績検討会をゆとりあ藤里で開催しました。

実績検討会には生産者やJA、市場関係者など約30人が参加し栽培状況や販売実績などについて協議しました。今年度は生育が前進傾向となり、その影響で旧盆需要期に向けて価格が上がらない厳しい販売環境でしたが、数量74万7,190本、販売額は3,039万円と目標には届かなかったものの、数量、販売額ともに前年を上回る実績となりました。市場関係者からは「栽培管理技術の統一化でさらに販売が伸びていくと思う」といった話がされました。



▲今年度の栽培を振り返った実績検討会



▲表彰される佐藤重樹さん

優秀営農指導員として表彰

JA秋田中央会

JA秋田中央会が主催する、「全県JA営農指導事業交流会」が11月1日に開催され、当JAからは営農企画課の佐藤重樹さんが地域農業の振興、農業所得向上に向けた先導的な取り組みを実践しているとして優秀営農指導員として表彰を受けました。

全県JAから営農指導員ら80人が参加した事業交流会で佐藤さんは「『白神ねぎ』10億円販売達成に向けた取組について」と題した事例発表を行い、品質の底上げとして始めた抜き打ち検査の実施、販売額のさらなる拡大に向けた「越冬早取り」の栽培体型の導入の取り組みなどについて話しました。

「うまい米」農家が味競う

稲作部会

稲作部会（堀内直富久部会長）は11月17日、JAあきた白神本店にて「食味官能コンクール」を開催し、組合長をはじめ地域振興局や市、町、青年部長や女性部長ら12人が審査員を務め、28年産米あきたこまちを食べ比べました。

このコンクールは、米の品質を高め、良食味米として有利販売につなげようと昨年に引き続き開催されました。事前審査を通過した5点がこのコンクールに進み、「外観」「香り」「味」「粘り」「硬さ」の5項目で判定され、審査員は新米の味を確かめるよう慎重に審査しました。今回の最優秀賞の米は良食味米として、地域で限定発売される予定です。



▲5項目の基準を厳しく審査する



▲厳正な審査をする審査員

子牛品評会を開催

畜産部会

第16回JAあきた白神子牛品評会が10月24日、藤里町営大野岱放牧場で開かれ、畜産農家が手塩にかけて育てた子牛12頭が出陣しました。子牛は雌の部と去勢の部の2部門に分けられ、県北部家畜保健衛生所などの審査員4人が資質や品位・均称、発育状況などを審査し、雌の部では藤里町の桂田安太郎さんの「みつゆりやす」が最高賞の優等賞に、また、去勢の部では、能代市の佐々木弘さんの「松義福」が劣等賞となりました。

審査員からは「生産者の努力で、高品質な子牛が生産されている。今後も飼養技術向上を目指し頑張してほしい」と講評しました。